

匠 夢追い人



アイデア溢れる羽子板 木彫工芸ひがし 東 明彦さん

大川市榎津で「木彫工芸ひがし」を営む東明彦さんは、羽子板づくりに忙しい。この記事の執筆時（4月16日）には、佐賀銀行南佐賀支店ロビーに東さんの羽子板が展示され、来店客を温かく迎えている。今年に入って、福岡銀行柳川・大川支店、大川信用金庫本店・川口支店、西銀大川、柳川支店と、続けざまに展示され、引っ張りだこの状態。来店客からは「懐かしい」「おもしろい」など好評を博しているそうだ。



東さんは大刀洗町出身で、昭和25年に大川に来て、欄間彫刻を学んだ。その後建具やテーブル、イスなどを制作する傍ら、工芸品などを制作してきた。

羽子板を制作するようになってきたきっかけは何だろうか。それは、昨年孫が通う保育園の先生からの注文だった。その後、昨年の大川木工祭りの実演コーナー、箇所、の夢博での反響の大きさに驚かされ、いろいろなテーマの羽子板を制作するようになった。羽子板の形をした杉、檜、楠に、和紙の人形や鏡、ドライフラワーなどを装着したもの。佐賀のバルーンにあやかっつたバルーン羽子板など見ていると楽しい。東さんはこう語る。「私は新しいアイデアを考えるのが好きなんです。そして不思議に出て来



るんですよ。ただ発想のヒントを得るためよく本を読みますね。異業種の方々との交流も大切にしています。もちろんお客さんとの対話に重視しています。」座右の銘は、温故知新だそうだ。建具欄間業だけに、伝統的なものを大切にしているが、新しいものも積極的に取り入れている。東さんの積極性は制作面だけでない。各地イベントには極力出かけ、仮店舗で販売を行う。「4月5日には秋月の桜祭りに参加してきました。19日にも秋月に行きます。」とかなり忙しそうだ。そのかいあつてか、最近では、関



西方面などの遠方をはじめ、「昔なつかしい羽子板がほしい」と、注文も増えているそうだ。東さんに将来の抱負を語ってもらった。「今後は羽子板を応用した家具、建具づくりにも挑戦していきたいと思っています。」

